

ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の持続的開発と環境保全 (7) — 北パンタナールにおける農家民宿とホテルの経営 —

Sustainable development and environmental preservation in the Pantanal, Brazil (7) : Management of farm lodges and hotels in the Northern Pantanal

仁平尊明* (筑波大学地球科学系)・丸山浩明 (横浜国立大学教育人間科学部)

Nihei, T.* (Inst. of Geoscience, Univ. of Tsukuba) & Maruyama, H. (Fac. of Education and Human Sci., Yokohama National Univ.)

キーワード：エコツアー、牧畜、農家民宿、ホテル、ポコネ

Keywords: ecotourism, stock raising, farm lodge, hotel, Poconé

南米大陸の中央に位置するパンタナールは、世界で最も豊富な動植物相を有する大湿原である。かつてパンタナールは、一部の釣り愛好家や野鳥観察家しか訪れない秘境と呼ばれた。しかし、1990年代初頭にブラジル政府がパンタナールをブラジルのエコツーリズムのモデル地域として宣伝したことを契機に、とくにヨーロッパとアメリカ合衆国を中心として、海外から大勢の観光客が訪れるようになった。近年では、パンタナールにおける急激な観光開発にともなう環境破壊の問題が顕在化している。

発表者は、すでに、パンタナールにおけるエコツーリズムの発展と地域資源の持続的利用に関する問題点を指摘した(仁平・丸山 2002)。その概要は、(1)湿原内における自然保護地域の拡大と野生動物保護対策の強化、(2)農場を主体としたエコツアーの企画、(3)周囲のセラード地域を含めた広域的な環境保護政策の必要性である。本報告では、とくに(2)の問題に関連して、農家民宿と近代的なホテルの経営事例を詳細に検討することにより、パンタナールにおける今後のエコツーリズムのありかたを提示したい。対象とする宿泊施設は、マットグロッソドスル州の州道370号線沿いに立地する近代的なホテルSESCパンタナールと、パンタナール縦断道路沿いに位置するピウヴァル民宿とする。

近代的なホテル経営

SESC (ブラジル商業連盟社会サービス) によって経営されるこのホテルは、1998年に開業した。ホテルの規模は、敷地面積4000平方km、部屋数60、収容客数160である。通年で行われるエコツアーは、河川遊覧、乗馬、写真ツアー、馬車ツアーなどである。これらに加えて、乾季には、ワニ、カピバラ、シカ、野鳥、蝶、花など、動植物の観察ツアーが用意されている。観光客が集中するのは、乾季の7～9月と雨季の1月である。国内からの観光客の多くは、地元のマットグロッソ州と隣接するサンパウロ州から訪れる。海外からの観光客の国籍で多いのは、ポルトガルとアメリカ合衆国であり、次いでドイツとイタリアである。

SESCパンタナールの従業員は、フロントの受付係が16人、エコツアーのガイドを含めたホテル運営が45人、クイアバの事務員が15名である。従業員のほとんどはポコネに居住する。ホテル勤務の従業員は、40kmの道のりを約1時間かけて車で通勤している。このホテルの特徴的な設備は、ゴミの分別施設、有機ゴミのコンポスト処理施設、有機野菜の農園、106mの深井戸および地下水の濾過施設である。また、このホテルは、近隣の10万6千haの土地を購入して、RPPN (自然遺産の個人保留地) に登録することで、研究・教育活動を目的として自然資源を管理している。

伝統的なファゼンダの民宿経営

150年の伝統があるファゼンダ・イピランガは、1989年から家族経営の民宿を始めた。その名前は、イペーの林 (ピウヴァル) の中にあることから名付けられた。低位水位期の5～7月にはブラジルの木であるイペーが満開になる。11月から1月の氾濫期および2～4月の高水位期には、敷地の一部が水に浸される。この農家民宿の所有地は7000haと広大であるが、牧畜を専業とする近隣のファゼンダが3.2～7.2万haを所有することから比較すると、大規模なファゼンダではない。

このファゼンダの敷地を示したのが図1である。民宿の敷地は500平方mであり、その南側に宿泊施設と農場施設が集中する。このファゼンダが増築した宿泊施設の規模は、母屋のレストランと5つの客室、それに隣接して、5つの部屋がある客室Bおよび、6つの部屋がある客室Cである。総収容人数は50人であり、ちょうど大型バス1台分である。

宿泊施設の前庭には、マンガやモッセグーラなどの大木があり、その下には、ベンチやハンモック用の柱がある。前庭には果樹園、プール、子供の遊戯施設が整備されている。果樹園には、レストランの食事に出されるレモン、アセロラ、胡椒などが栽培されて

いる他に、ニワトリも放し飼いにされている。また、テラスには、餌付けされたスマイレコンゴウインコが飼われており、観光客の人気を得ている。観光客の内訳は、乾季の7～8月における宿泊客は、9割が外国人であり、ブラジル人は週末に訪れる程度である。外国人観光客の国籍は、ドイツ人が最も多く、次いでイタリア・イギリス・フランス・ポルトガル人となる。しかし、カーニバルやセマナ・サンタなどの祭りが続く2下旬～3月にかけては、ブラジル人の観光客の方が多くなる。

今後のエコツーリズムに向けて

宿泊業の実態を検討することにより、パンタナールにおけるエコツーリズムのありかたとして、次の点が指摘できる。まず、近代的なホテルと農家民宿ともに、地元住民がエコツーリズムに参加する機会を増加させる必要がある。彼らの生活の知恵は、草木の薬物利用、野生動物の生息場所と活動時間、家畜の飼育方法など、非常に多様かつ豊富である。また、行政は、パンタナール南部の一部の地域で実施しているように、専門教育を受けたインストラクターを派遣する必要がある。このことは、とくに国内からの観光客が多い近代的なホテルにおいて、マストツーリズム化しつつある企画に有効であると考えられる。[本研究は、科学研究費補助金・基盤研究(B) (No.13572037, 研究代表者：丸山浩明) および筑波大学学内プロジェクト研究 (奨励研究) の補助を受けた。]

文 献 仁平尊明・丸山浩明 2002.ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の持続的開発と環境保全(6) —北パンタナールのエコツーリズム. 日本地理学会発表要旨集 62: 160.

